# あたって ご挨拶

東通村長　越善靖夫

新年明けましておめでとうございます。

平成二十六年の新春にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

村民の皆様には、平素から村政の各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、国の経済政策「アベノミクス」により、全体的には景気が回復基調となり、経済活動が活発化してきております。又、福島での原子力発電所事故の処理を含め、被災地での復興が加速されてきております。

しかしながら、国政では、東アジアでの防衛問題、TPP関連協議、少子高齢化対策などの問題があり、消費税の増税と合わせて、一層困難な状況が続くものと思われます。又、景気の回復は、地方において、今尚、実感として感じられない現状にあり、特に青森県、下北半島においては、経済が活発になっておりません。

このような状況下、原子力発電所の運転再開、工事再開を含め、エネルギー政策の中での原子力の位置づけが明確に示されていない現状であります。東通村は、電力消費地へエネルギーを供給するという責任と誇りを持って、昭和四十年の村議会での誘致決議以来、安全性を第一義に、国策である原子力政策、エネルギー政策に対して、一貫して協力してきたものであり、原子力発電所との共生をもって、各種産業基盤、教育、福祉等の施策を着実に進めてきました。

事業者における福島第一原子力発電所の事故を踏まえた安全性向上のための取組として、防潮堤、フィルター付格納容器ベント設備や免震重要棟などの様々な対策が完了または進められております。

一方、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、村の原子力防災計画を修正し、県や関係市町村と連携を密にしながら、避難先を青森市とする等の具体的な避難計画の整備を進めております。

ところで、国は、エネルギー基本計画を一月中に閣議決定する予定と伺っています。

現在、日本国内の原子力発電所は全て停止しており、各立地地域では原子力関連の雇用が大幅に減少し、地域経済は大打撃を受け、社会・経済に対する影響も計り知れないものがあります。又、我が村の商工関係者も同様に大変厳しい状況であります。

東通原子力発電所の問題については、地元商工関係者より、早期の運転再開と、早期の工事再開を強く望み、要請を受けております。改めて両電力に対して、早期の再稼働、工事再開について要望書を提出し、強く村の意志を伝えて参りました。

国においては、安全性が確認された原子力発電所は速やかに再稼働させるべきであり、エネルギーにおける原子力の位置づけをして欲しいと考えております。引き続き、皆様と共に、我が村の実情を訴えて参りたいと存じますので、ご理解を賜りたいと存じます。

こうした中、我が村の第一次産業は、農業は四月、五月の気温が平年を大きく下回ったことにより、春作業が大幅に遅れましたが、その後、直接的な台風の被害もなく好天が続いたことにより、田植え後の生育が順調で、春作業の遅れが挽回できたところであり、平年を上回るところまで回復したことから、作況指数は一〇三となりました。又、そば、大豆の野菜などは、長雨により平年に比べやや収穫量が減少いたしました。

畜産業は、福島での原子力発電所の事故による影響や、鳥インフルエンザ、口蹄疫などの伝染病の影響が心配される中で、八月以降、子牛の平均価格が五十万円台という高値で推移し、枝肉価格も上昇傾向で、今後も高値が続く見通しであります。

一方、漁業においては、漁船燃油や資材の高騰など、依然として厳しい状況下にあり、村の主力のイカ釣り漁は、順調な時期もありましたが、海水温が高かったため漁獲量と生産額は昨年を下回ることから、厳しい一年であったと伺っております。又、サケ定置網漁は、ここ数年不漁続きでありましたが、暮れには、昨年を上回る予想となっております。外海ホタテ事業は、大きく落ち込んでおり、稚貝の安定確保に努め、放流事業の結果を見守って参りたいと存じております。コンブ漁は、一昨年並みとはいかないまでも豊漁となりました。

この様に、地元経済活動においても、或いは、行財政運営も厳しい状況でありますが、行政課題を着実に解決しながら、将来を見据えた村づくりに努め、第一次産業の振興・発展のため、漁港・漁場・道路等の充実を図るとともに、教育、福祉、医療を重点的に推進しております。教育に関しては、こども園の卒園生が初めて小学校に入学し、いよいよ幼・小・中の一貫教育が実践されようとしております。又、福祉については、民間により東通村特別養護老人ホームが夏にオープンし、供用されています。又、念願でありました泊・白糠バイパスのトンネル効果が現れており、春先には岩屋バイパスの供用開始を予定しています。大震災の教訓を踏まえ、避難道路の設計の着手と併せ、津波に対する海抜標識増設を実施し、防災体制の整備促進を図っております。

東通原子力発電所の運転再開と工事再開の時期が明確となっておらず、非常に厳しい経済環境、行財政状況は続きますが、私としては、今、この難局を乗り越え、将来の東通村の基盤をしっかりとしたものに整え、将来にわたって村民が東通村に誇りを持って頂くよう、皆様と共に行政を進めていかなければならないと思っておりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

村民の皆様の今年一年のご多幸を心よりご祈念申し上げまして、新年に当たってのご挨拶といたします。